

よりよい議会活動をめざして

常任委員会行政視察報告(総務・産業建設常任委員会)

市民との協働のまちづくり・行政 改革推進都市を視察

総務常任委員会

総務常任委員会では、十一月六日から八日までの日程で、福岡県福津市及び佐賀県武雄市を視察しました。

福津市は、市民との協働のまちづくりを推進し、「福津市わがまちづくり支援事業」を実施しています。概ね小学校区単位ごとに地域の住民で組織された活動団体が実施主体となり、子育て支援事業や地域の交流事業など多種多様な活動を行っています。市からは一地域あたり年間二百万円の財政的支援や職員を参画させる人的支援が行われていました。この事業により、地域の身近な問題がスピーディーに解決するようになったり、市民同士の交流が促進された等の効果があるとのことでした。

武雄市は、若くバイタリティあふれる市長のもと、積極的に行政改革に取り組んでいます。

推進体制として、庁内の組織のほかに市民会議を設け、広く市民の意見を反映した実効ある行政改革の推進を図っています。財政状況については、当市と同様、今後ますます厳しくなることが予想され、あらゆる面で歳出削減を図りながら、一方で武雄市を全国にアピールし、武雄ブランドを向上させて新たな財源の確保に結びつけようと、テレビドラマのロケ地誘致に投資するなど積極的な攻めの改革も行っていました。



福津市役所福間庁舎前にて

阪神淡路大震災からの 復興状況などを視察

産業建設常任委員会

当委員会では、十一月十三日から十六日まで兵庫県篠山市、神戸市、たつの市及び淡路市を視察しました。

視察した丹波篠山ふるさと遊農・楽農特区は、観光と農業の地域資源を活かした事業展開を図ることを目的とし、農業民宿、濁酒製造、農地貸付等の規制緩和をする内容であり、地域の特色ある取り組みとして事業展開がされておりました。

次の神戸市では、阪神・淡路大震災からの復興状況と現在の課題を視察しました。甚大な被害をもたらした大震災の後十年の歳月を経て、人や街並みは震災前の状況に戻ったものの、経済面に受けた打撃は大きく総合的に判断して八割の復興だとのことでした。

続いて訪問したたつの市では、観光振興の取り組みについて視察しました。昨年十月の周辺一市三町の合併により豊かな自然環境と数多くの歴史的資産に恵まれた市となりましたが、合併後は観光協会の統合をはじめ、新市の特色ある観光振興を模索しており、その苦勞が伺えました。

最後に訪問したのは淡路市にある北淡震災記念公園であります。この施設は、阪神・淡路大震災により現れた国指定天然記念物の野島断層を保存・展示しており、大震災の記録を後世に伝える貴重な施設でありました。



神戸市会議事堂前にて

よりよい議会活動をめざして

常任委員会行政視察報告(生活福祉・文教常任委員会)

地域包括支援センター、ごみ処理事業、 特区事業、高齢者福祉産業を視察

(十月十七日～十九日・岡山県総社市、徳島県上勝町)

生活福祉常任委員会

総社市では、岡山モデルとして実施している地域包括支援センターの活動状況について視察。真に地域の高齢者に必要とされる機関として、地域に根ざしたサービスの展開を図るべく、「地域小ケア会議」と「地域ケア会議」を設置していることは特徴的で、大変参考にすべきものと感じました。

上勝町では、平成十五年から三十五のごみ分別を行い、一般廃棄物の約80%を資源化、ごみの量も三分の一に減らすことに成功した「ごみ処理事業」、また過疎化が進む中で、民間唯一の輸送機関だったタクシー会社が休業したことから、交通弱者の移動手段として国の構造改革特区事業の認定を受けた「有償ボランティア特区事業」、ならびに新たな基幹産業として、葉っぱを売るアイデアをもとに料理のつま物にする材料を商品化し、高齢者を人材として活用した「高齢者福祉産業」を視察いたしました。高齢化率約48%の四国地方で一番小さな町にあって、在宅での寝たきりの高齢者が三人のみであるなど、その地域に即した事業の展開を図る努力を実感してまいりました。

いずれも、地域の資源や特徴を十分に理解・活用し特色ある施策を展開しており、参考とすべき点の多い視察でした。



総社市役所前にて

生涯学習・学校教育施策を視察

(十一月十三日～十五日 今帰仁村、那覇市)

文教常任委員会

今帰仁村では、生涯学習施策、文部科学省の生涯学習まちづくりモデル支援事業を視察しました。本事業では、本島まで橋が架かることでの島の激変を想定し、小学生の文集作成、島民の遊歩マップ出版等を通じて、島の歴史や自然、祭祀や伝統を再認識し、島の豊かさを理解し、自分達が住む島を考えることが行われました。私達も合併を契機に、自分達の住む地域を再認識し理解することが重要だと感じました。

那覇市では、学校教育施策、文教施設協会賞「教育環境の新設部門」受賞校の銘苅小学校を視察しました。ここでは、学校づくりと地域づくりが同時進行しており、施設面では太陽光・風力発電、屋上緑化、雨水利用が導入され、また、環境面では、PTCAという組織により学校・家庭・地域等が協働でサマースクールなどを実施していました。

また、生涯学習施策、子供の読書活動推進計画も視察しました。この計画では、子供が読書の楽しさに気づき、自ら進んで本を読む環境を社会全体で作ることを目的に、全蔵書のデータベース化、公立図書館との連携、全小中学校への司書教諭と学校図書館事務主任の配置がなされ、図書管理や学習支援が行われていました。

いずれも、地域の特性や資源を十分に理解し活用を図りながら、充実した施策を展開している地域であり、参考とすべき点が多い視察でした。



今帰仁村役場前にて